

令和8年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	3		学校名	茨城県立日立第一高等学校				課 程		全日制			学校長名		細 貝 雅 之			
副校長名	椎 名 秀 文			教頭名	沢 畑 雅 彦 (高校)				深 津 一 郎 (附属中)				事務室長名		鈴 木 透			
教職員数	教諭	7 6	養護教諭	2	A L T	3	常勤講師	3	非常勤講師	4	実習助手	2	事務職員	4	技術職員等	6	計	1 0 5
生 徒 数	小 学 科 (単位制)		1 年次			2 年次			3 年次			合 計			合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女								
	普通、サイエンス		1 3 9	1 0 1									1 3 9	1 0 1	6			
	普通				8 9	6 9	8 8	6 4	1 7 7	1 3 3	8							
	サイエンス				4 7	3 3	4 5	3 4	9 2	6 7	4							

教職員数には、附属中学の教職員を含む。

2 目指す学校像

本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する学校である。
そのために、様々な学習機会を提供し、各教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな指導を行うとともに3年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、次のような生徒を育成することを目指す。

- 1 自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる生徒
- 2 物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる生徒
- 3 高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる生徒
- 4 運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる生徒

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成するため、次のような資質・能力の育成を目指します。 ○自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる資質・能力 「やり抜く力」＝GRIT:Guts、Resilience、Initiative、Tenacity ○物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる資質・能力 ○高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる資質・能力 ○運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる資質・能力
---------------------------------------	---

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○進学重視型単位制の特徴を活かし、多様な選択科目を設置し、少人数授業を展開します。 ○普通科では、文系コース・理系コースを通して、生徒の進路希望に対応します。 ○サイエンス科では、医学コース・医学系進学コース、理工系進学コースを通して、生徒の進路希望に対応します。 ○教科指導の充実に努め、主体的・対話的で深い学びを推進し、課題発見能力や課題解決能力を育成します。 ○生徒が主体的に取り組む学習活動と特別活動の両立を推進し、生徒のやり抜く力や自ら健康を管理する力を育成します。 ○生徒が主体的に企画・運営する生徒会活動・学校行事等を充実させ、自主性や豊かな人間性を育成します。 ○国際交流、高大連携事業、大学・職場見学、ボランティア活動等の体験事業を推進し、生徒の高い志を育成します。 ○SSHで培った「課題研究」を推進し、論理的に議論できるリーダーを育成します。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○本校の学修に必要な基礎学力を有している生徒 ○他者と協働して活動し、主体的に学ぶ姿勢を有している生徒 ○課題を見出し、課題を解決するための基礎的な思考力・判断力・表現力を有している生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現状分析	課 題
学習支援 進路支援	個に応じた進路・進学指導が実を結び、生徒個々の進路希望に応じた多様な大学への進学者が増えているが、東京大学や医学部医学科などの難関大学への進学指導体制の一層の充実が必要である。	難関大学入試の現状分析と指導体制の充実 各自の進路形成に資するキャリア・パスポート、各種学習サービスの効果的な活用
生徒支援	生徒の自主性・自律性を重んじた一貫した指導により、生徒支援上のトラブルは少ない。	自主性・自律性を高めるための発達支持的生徒指導 長欠生徒や特別な配慮が必要な生徒への支援
特別活動	学校行事や部活動に生徒が積極的に参加している。部活動と家庭学習のバランスを上手に取れる生徒が増えてきた。	学校行事や部活動の目的、意義の明確化 リーダー的資質の育成
国際教育	イギリス（ロンドン）へ渡航し、ロイヤルラッセルスクールの模擬国連に参加して、国際的な諸問題の解決策を提言することができた。	生徒の英語力と国際問題への意識の向上を目指した事前・事後研修の充実
科学教育	SSH事業を通して、サイエンス科・普通科ともに課題研究で探究・研究活動を進める際の活動計画性やICT技術、ディスカッション力が向上している。	課題研究での結果・考察における数値の取り扱い及び、発表会時の質問者側のディスカッション力
働き方改革	時間外労働時間はこれまでより減少傾向だが、より一層の改善が必要である。 令和7年度の時間外在校等時間は、月平均30時間45分であり、月平均45時間超過の超過者割合は20.2%、80時間超過者割合は0.9%である。	業務の効率化、余白の時間を生み出すための教育課程の研究

5 中期的目標

- 1 教科指導の充実に努め、主体的・対話的で深い学びを推進する。
- 2 各種学校行事を通して生徒一人一人の自己認識を深めるとともに、進路希望に対応する中で難関大学・医学部進学者を継続的に排出し、グローバルに活躍するリーダー的人材を育成する。
- 3 生徒支援上の問題に対して、未然防止・早期発見を図り、安全・安心な学校生活を保障する。
- 4 生徒会活動・学校行事等を通して、生徒の自主性を育む。
- 5 学習活動と特別活動の両立を推進し、生徒のやり抜く力を育成する。
- 6 生徒主体で運営される学校行事や国際交流、大学・職場見学、ボランティア活動等の体験学習をより推進し、キャリア・パスポートを活用しながら、生徒の高い志を育む。
- 7 SSHを通して、科学的思考力を持ちディスカッションができる生徒を育成する。
- 8 学校及び教職員の業務の整理・見直しを進め、教職員の負担の軽減を図り、時間外在校等時間の縮減を進める。

6 本年度の重点目標

	重点項目	重点目標
1	高い志の育成	① 生徒の進路希望を達成する学習・進路支援体制の確立（教務部、進路支援部、各教科）
2	学力の向上	② タブレットの活用の推進及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直し、生徒の授業満足度（項目5，6）の学校の評価平均3.6以上（教務部、進路支援部、各教科） ③ 総合的な探究の時間の充実・改善（教務部、SSH、1・2年次） ④ 先取学習や学習の深化などの附属中学校の学習指導の教科内共有と中高交流授業と中高接続の充実（各教科） ⑤ 特別な支援を必要とする生徒や成績不振の生徒に対する組織的な支援の推進（教務部、各年次、各教科）
3	豊かな人間性の育成	⑥ 教育相談や面談を通じた生徒理解及び生徒・保護者支援の充実（教育相談部、各年次） ⑦ 主体的・自律的な態度を育てる特別活動や学校行事の工夫・改善（特別活動部、各年次）
4	働き方改革の推進	⑧ 業務の効率化及び複数人体制による、個人が抱える業務量の軽減（各校務分掌） ⑨ 余白の時間を生み出すための教育課程の研究（教育課程検討委員会、教務部）